

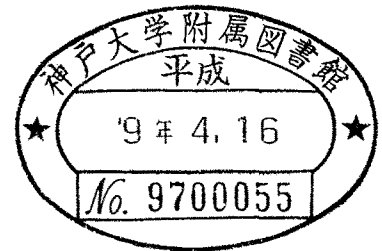
阪神・淡路大震災

神戸市災害対策本部学校部

100日間の取り組み



〔平成7年4月25日〕
神戸市教育委員会事務局



- 1 1995. 1. 17 (火) 早朝 神戸で震度7の激震
- 2 その時子ども達は(神戸市立鷹取中学校の作文集から)
- 3 その時学校では「不眠不休」(3月13日 神戸新聞 朝刊)
- 4 全市防災指令第3号発令, 24時間体制での非常時体制
- 5 神戸市災害対策本部学校部の始動(1月17日)
- 6 1月18日 現地調査第1報「被害甚大, 死傷者多数」
- 7 1月19日 早朝 震度3の余震発生
- 8 1月22日 市内に雨が降り始める
- 9 1月23日 学校教育活動の再開 135校園
- 10 1月24日 震災後1週間の被災状況
- 11 1月26日災害対策本部学校部10日間の取り組み
- 12 1月31日 神戸 氷点下1.8度
- 13 2月7日 震災後初めての教育委員会会議の開催
- 14 2月1日 児童・生徒の転出状況
- 15 災害対策本部学校部の取り組み課題の重点(2月1日)
- 16 全国各地からの救援の申し出, 支援活動続く
- 17 2月11日 神戸市立学校園施設の被害金額の推定総額
- 18 2月16日 仮設教室の建設始まる
- 19 災害対策本部学校部の1か月の取り組み(2月16日)
- 20 2月24日 学校教育活動の全校再開なる
- 21 授業再開控え教師ら奮闘(2月19日 神戸新聞 朝刊)
- 22 友達の分も頑張る(2月21日 神戸新聞 朝刊)
- 23 3月5日 神戸市合同慰霊祭
- 24 3月上旬 小・中学校における学習指導計画指針の作成
- 25 3月7日「がんばれ! 神戸っ子新聞」の発行
- 26 3月15日 平成7年第1回定例会始まる
- 27 3月9日「神戸の教育再生緊急提言会議」設置
- 28 3月14日 神戸の中学校で一斉に卒業式
- 29 3月20日 公立高校入試の合格発表
- 30 3月24日 神戸市内の小中学校で卒業式
- 31 3月19日 新採用予定者全員採用へ方針
- 32 3月21日 学用品受入れセンターの業務終了「数多くの善意に感謝」
- 33 3月27日 平成7年度教職員人事異動の内示発令
- 34 子どもの「心のケア」事業を本格的に開始
- 35 3月31日 神戸市教職員係長級以上726人の人事異動の辞令交付
- 36 4月1日 平成7年度スタート。避難所学校園の新しい体制始まる
- 37 4月5日 避難住民が3万人を割る
- 38 新学期始まる。4月10日
- 39 4月14日 小学校全校で給食再開
- 40 4月26日「震災から100日, 神戸の子ども達は未来に向け立ち上がっています。」

00097000557

阪 神 ・ 淡 路 大 震 災
神戸市災害対策本部学校部 100 日間の取り組み

1 1995. 1. 17 (火) 早朝 神戸で震度7の激震

阪神・淡路大震災発生 AM5:46 M7.2

死者・行方不明 5,000人をこえる戦後最悪の直下型大都市地震が発生した。家の倒壊、火災が発生。死者が続出した。学校教育についても人的・物的に多大の被害を受けた。

2 その時子ども達は（神戸市立鷹取中学校の作文集から）

- ・ 朝6時前、寝ている時に「ドーン。」と縦ゆれが起こった。その後すぐに「ゴゴゴゴ」と横ゆれがおこった。ぼくはふとんにくるまっていた。地震が止まるとローソクをつけて服を着がえて、くつをはいておもてに出てみると、かべがおちて家が傾いていてびっくりした。……地震の時は、死ぬかとおもったけど今は少しずつもとにもどってきたのでがんばろうと思う。
- ・ 1月17日、ドーンという大きな音と共にガタガタと家具が倒れかかってきた。その地震が「兵庫県南部地震」と知ったのは時計の針が8時を指しかかったころだった。近くの商店街が赤々と燃えて、くずれることはないと思われる程頑じょうなマンションが、家が、高速道路がいとも簡単に崩れてしまった。……これから、ぼく達は何をしていけばいいのだろう。人によって違うと思うけど、一生懸命勉強して、一刻もはやく鷹取中学校を復興させることが全国のみなさんやボランティアの人たちへのお返しになるのじゃないかなと、ぼくは思う。
- ・ 一番つらかったのは、友だちが亡くなったことでした。新聞で名前がのったとき、すぐ信じられなくて、今でもいるんじゃないかなと思います。お風呂屋さんへお母さんといっしょに行ったとき、遺骨を持った中学生らしい男の子が焼け跡で座っているのを見ました。……私も何カ所も焼け跡を見ていると、つらくなってきます。日本中の人々から、義援金と救援物資をもらって本当にありがたいと思っています。



周辺が焼失した千歳小学校

3 その時学校では「不眠不休」（3月13日 神戸新聞 朝刊）

神戸市立鷹取中学校の教諭，中溝茂雄さん（38）が学校に着いたのは午前8時20分，四番目だった。門の前に50人ほどの避難住民がいた。停電で動かないシャッターを同僚と押し上げ，体育館に入れた。午後，学校には遺体が次々に運ばれてきた。トラックから下ろすのを手伝った。4人で一体を運び，足を持った。その重さがいつまでも手に残った。避難してきた人には事務室にあった菓子配った。夜，避難者が1,600人に増えた。校長の近藤豊宣さん（58）は，すべての校舎を開放した。救援物資はすべて被災者に回した。区役所の職員が食パンを教室に運ぶと，すぐになくなった。パンは4人に1枚。毛布は1人1枚もあたらない。だがパニックは起きなかった。停電の闇の中，多くの人がぼう然と座り込んでいる。遺体が安置された教室にも避難者が入り，夜明けを待っていた。静かだった。

18日。さらに遺体約40体が運び込まれた。食料事情は好転しない。役所からの応援が来ない。余震と恐怖と疲労と空腹と。人々の目は「限界」を感じさせた。

19日。「検視をして」と，学校にできた診療所を訪ねてきた女性がいた。「遺体はどこ」と聞く中溝さんに，「ここです」と手に持った缶を示した。焼け跡で捜したらしい骨が入っていた。三日間，眠らなかった。（一部略している。）



（鷹取中学校）

（同校は，4月17日現在，なお避難住民は732人と市内中学校で最も多い）

4 全市防災指令第3号発令，24時間体制での非常時体制

神戸市立の学校園はただちに休校とし，被害の大きかった神戸市の南部地域の学校園は，想像をこえる多くの被災住民の避難所となり，以降長期間にわたり学校教職員はその受け入れ・対応に忙殺されることとなった。（AM6:50 神戸市災害対策本部設置）

5 神戸市災害対策本部学校部の始動（1月17日）

未曾有の大震災を前に、その日教育委員会事務局に集合した職員で教育長を部長とした災害対策本部の学校部を設置し、対応にあたった。第1回全体会議での指示は以下の4点。

- (1) 学校園における児童・生徒の安否の確認
- (2) 学校園施設の被害状況の把握、安全点検
- (3) 避難所運営の対応
- (4) 学校休校措置、全員出務24時間体制の確立

なお、この日深夜、教育委員会事務局の庁舎（市役所3号館）が余震のため危険と判定され、市役所1号館に全員移動した。

6 1月18日 現地調査第1報「被害甚大、死傷者多数」

震災の当日から学校園の被害状況の調査・取り組みが始まった。1月18日に収集できた第1報は以下の通りである。この日淡路島で余震発生 M4.1。東灘区ではLPGタンク基地でガス漏れ発生。

- ・ 児童・生徒被害者数 死亡32人、重軽傷者多数
- ・ 被害施設 116校園
- ・ 避難者総数 85,763人（142校園）

（1月20日の神戸新聞夕刊）

「死者・行方不明4,200人の規模は、昭和23年の福井地震死者3,700人を上回る、戦後最悪の大規模災害で、都市災害では最大のものとなった」

7 1月19日 早朝 震度3の余震発生。スイス災害救助隊25人が、捜索犬12頭とともに到着

8 1月22日 市内に雨が降り始める。全国各地からボランティアが兵庫県・神戸市に。

9 1月23日 学校教育活動の再開 135校園（全校園345校園の40%）



想像をこえる被害をもたらした震災から1週間、今回の震災では地域的に被害の少なかった北区、西区、垂水区そして須磨区北部の学校園から順次学校教育活動を再開することとなった。

(1) 再開に向けた取り組みにあたり、以下の指針を示した。

- ① 避難住民の生活を最優先すること
- ② 学校生活上の安全確保に努めること
- ③ 児童・生徒の被害状況の把握

④ 通学路の安全確保に努めること

なお、これらの措置に並行して、避難所となっている学校園の教職員の負担を少しでも軽減するため、被害の少ない地区の学校園の教職員が避難所校園に出かけて宿泊などの支援活動を開始した。この支援体制は、以降長期にわたり継続実施した。

- (2) この日以降、学校園の教育活動の再開は順次実施をしていき、全校園が再開されたのは、39日目にあたる2月24日となった。

10 1月24日 震災後1週間目の被災状況

- (1) 児童・生徒の死者 127人（最終的には64校園178人）

教職員の死者 10人（最終的には11人）

(2) 避難所校園の状況

- ① 学校園数 191校園、避難住民数 136,295人（最大ピーク時）

- ② 社会教育施設 12施設、避難住民数 2,267人（最大ピーク時）



(3) 全市被害状況

死者 3,538人、不明 159人、負傷者 14,268人

火災 368件、避難所 585か所、避難住民数 227,256人

※ この日、阪神・淡路大震災が激甚災害法に指定された。

（1月28日現在の兵庫県内の死者 5,076人と発表された。）

11 1月26日災害対策本部学校部10日間の取り組み

教育委員会では、今回の被災の状況とそれに合わせた取り組み実態に即した5つのプロジェクトを発足させ、復旧活動にあたった。

(1) 総務・広報プロジェクト

総務事務、広報対応、補正予算対応

(2) 区支援プロジェクト

灘区支援に課長級2人、係長級1人、担当者50人の派遣のほか、民生局の救援物資班に10人派遣

(3) 学校園改修プロジェクト

学校施設の被害状況の把握と補修（被害甚大校33校，中規模程度の被害校37校，補修工事必要校153校 計223校園）

仮設教室の建設，予算編成作業

(4) 学校園再開プロジェクト

学校教育活動の再開 1/26現在 163校園/345校園＝開校率47.2%

(5) 避難住民プロジェクト

避難所改善対策，避難所支援活動，給食センターでの炊き出し活動，ホームステイ相談センターの設置(1/27)

学用品受入れセンターの開設，稼働

なお，1月27日には，学校部事務局は元の庁舎3号館へ復帰した。

また，1月30日には，震災後初めてのブロック別校園長会が開催された。

12 1月31日 神戸はこの日氷点下1.8度を記録，冬一番の寒さ。

13 2月7日 震災後初めての教育委員会会議の開催

委員長あいさつ，黙禱

(1) 震災に関する報告

(2) 条例改正案件他6件の審議

この日，第1次仮設住宅や公営住宅の入居が発表された。2,700戸。

14 2月1日 児童・生徒の転出状況

被災を受けた地域における児童・生徒の転出，特に小学校における転出が15%と大幅に進んでいることが判明した。

(1) 対象 市立小学校 173校 100,077人（1月16日現在）

市立中学校 82校2分校 48,470人（1月16日現在）

(2) 調査日 2月1日

(3) 転出数 小学校転出児童数 14,987人（15%）

うち市外への転出数 11,932人（11.9%）

中学校転出生徒数 1,854人（3.8%）

うち市外への転出数 1,530人（3.1%）

こうした状況から，新年度における教職員定数の確保が大きな課題の一つとなってきた。

※4月9日児童・生徒数速報値

小学校 93,121人 { 前年5月 99,803人 } ▲6.7%

中学校 46,705人 { 前年5月 48,426人 } ▲3.5%



児童の通学路安全確保のため集団登下校

(西灘小学校)